平成２９年１１月８日

宮﨑トライアスロンＷＣ審判レポート

日程：平成２９年１１月３日(金)～５日(日)

報告者：古藤英樹

担当：１１月３日（金） 　　　　　エリートスイム試泳

１１月４日（土）、５日（日）ランコース立哨（Ｒ９）

１．運営について

（１）エリート競技での本部および審判長への連絡

両者の携帯電話番号をもらっていたが、競技中は応答がなく判断をあおげないことがあった。本部にはかならず繋がるような体制をお願いしたい。

（２）エリート競技でのボランティアの配置

給水エイドのあとに、選手が投げ捨てたペットボトルを回収するボランティア２名が、午前の女子の競技では配置されていたが、午後の男子の競技では配置されなかった。（急きょ立哨ボランティアに対応をお願いしため、立哨不在で対応。）

（３）エイジのランコース(Ｒ９～Ｒ８)の変更指示

１２：３０の交通規制解除後の車道の利用について、事前に本部に確認し車道の利用を継続しようとしていたが、セレスポのスタッフ(たぶん)からコースを歩道へ変更するよう指示があった。

このため、本部へ再度確認を行ったところ、事前の確認どおり車道継続利用との認識であった。

現場への指示は、運営管理側と本部で双方確認した上で行なってもらいたい。

また、この件については、事前に分かっていたことなので、ＴＯミーティングの時点であらかじめ取り決めておくべきであった。（ラン制限時間１３：０９、交通規制解除１２：３０であり、規制解除後の車道のコースをどうするか。）

（４）トランシーバー使用に関する応答

トランシーバーの使用は、迅速に情報の共有ができ便利であったが、こちらからの質問に対する反応がなく、現場判断に困ったことがあった。（前述(３)の件）

（５）地面に立てかけてあるスポンサー看板がランコースにはみ出していた。

また、ランコースのイン側に設置されていたスポンサーフラッグが、風向きによってコースにはみ出してしまう状態であり、選手と接触する恐れがあった。

（競技前に修正した。）

２．競技中の対応にいついて

（１）国際大会で想定される状況で必要なフレーズの英訳の準備をお願いしたい。

(ローカルの審判は簡単な英語でもとっさに出てこないもの。)

例）「レースナンバーを前にして」「歩道を通って下さい」「競技中なのでコース内に入らないで下さい」など選手や応援者への注意など。

（２）カメラバイクが、ランコース（Ｒ９⇒Ｒ８区間）のセンターラインを超えて逆走しながら選手を追っていた。折り返しの選手と衝突の危険がある。（後席の外国人カメラマンが指示を出していた様子。）

３．反省事項

（１）エリートレースで、リタイヤ者が出てメディカルを呼ぶ必要があったが、現在地を的確に伝えることができず、時間を要した。事前に位置の伝え方について予習をしておくべきだった。

（２）バイクパート後の１周回目は、レースナンバーが背面のままの選手が多く見受けられる。声をかけるが集中して聞こえない選手も数人おり、声をかける位置、かけ方にもっと工夫が必要であった。また、外国人選手には伝わりにくかったため、英訳を予習しておく必要があった。

以　　上